

## 令和元年度 近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞

「知る」のその先へ

奈良市立平城西中学校 三年 江澤 瑞希

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

小学校一年生の時にはじめてもらった教科書から、九年間もらったすべての教科書の裏表紙にこの言葉は印刷されていた。この言葉をはじめて読んだ時のことははっきりと覚えてはいないが、今までただ漠然と「税金って思ったより身近なのかな。でも、ニュースで年金がどうの消費税がこうのって言っているのを聞くと、難しそうだし、身近ってほどでもないか。」と思っていた。

しかし、中学校二年生の四月。配布された学年通信の内容を読み、自分の考えがかわった。学年通信の見出しには、「教科書無償は尊い願い」と、あった。

教科書は昔は有料で、今も本来は有料であることは知っていたし、義務教育だから無償なんだろうと分かっていたつもりだった。

その時の学年通信には教科書無償化のきっかけとなった「紫雲丸」の事故について書かれていた。事故が起きたのは、一九五五年。

高知県の貧しい町の中学校の修学旅行生も乗った紫雲丸が船と衝突し沈没。犠牲者の多くは修学旅行生だった。理由は、船底の部屋においてきた、親がもたせてくれた高い旅行道具、そして、教科書。それを取りに行行って逃げ遅れてしまい、多くの命が失われた。

貧しさゆえの悲劇に、遺族は立ちあがった。憲法二六条に基づき、教科書無償への運動をはじめ、全国へ広げていった。たくさんの苦労をかさね、紫雲丸の事件から8年後。国会で教科書の無償が決定された。

今回作文を書くにあたり、教科書無償化についてインターネットで調べた。そこで、小学校一年生の教科書が入っている袋にかかれた「教科書が無償の理由。また、それを子供に伝えてほしい」という言葉を「恩着せがましい。」と思う意見があることを知った。

教科書が無償なのはあたりまえか、そうでないのか。人によって考え方は違っても、税金で購入されていること、無償には多くの犠牲があったことを忘れてはいけないと思った。

今、日本にある税は約五十種類。それさえこの分を書かなければ知らなかった。その内、自分が分かるのは消費税、自動車税、所得税……十個いえるかどうかも怪しい。しかし、これから先、生きていくうえで税金と縁を切ることは不可能だし、税金のない社会も想像がつかない。

難しいから知ろうとしない、ではなく、難しいからこそ知らなくてはいけないのだと、今回作文を通して思った。まずは、一番身近な消費税。十%の増税もすべてではなく、軽減税率や、還元など、ややこしいことがたくさんある。それでも、その税によって教科書が使えているかもしれないし、生活が支えられているかもしれない。まずはニュースをみ

て、税について知る事から始めたいと思う。